

新年の挨拶



常陸大宮市長
鈴木 定幸



常陸大宮市議会議長
小森 敬太郎

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、令和3年の輝かしい新春をご家族おそろいで、健やかに迎えの心からお慶び申し上げますと共に、旧年中の温かいご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。
振り返りますと、昨年は新型コロナに翻弄された1年であったように思います。着任早々、新型コロナによる死者ゼロ、コロナ禍を原因とした市内企業、小規模事業者の倒産・廃業・撤退ゼロを目標に掲げ、様々な対策に取り組んでまいりました。今後も国・県の支援を最大限に得ながら、必要な対策を講じ、全力で取り組んでまいります。
また、一昨年には令和元年東日本台風が本市に大きな爪痕を残しました。政府は昨年12月に、災害に強い地域づくりを狙いとした2021年度から2025年度を期間とする国土強靱化「5カ年加速化対策」を閣議決定し、老朽インフラの修繕などの防災・減災事業に関する完了時期の前倒しなどを示しております。こうしたことから、令和元年東日本台風からの復旧復興につきましても、那珂川・久慈川の緊急治水対策プロジェクトを加速化させ、国や県、市民の皆様と連携し、強力に推進していく考えであります。
さらに少子高齢化や人口減少問題を最重要課題として、大幅な保育料改定の検討や、私が政策の一丁目一番地と位置づけている常陸大宮駅周辺整備事業のほか、那珂川大橋の架け替え整備事業と歩調を合わせて進めなければならない「まち」と「河川空間」を融合

させた「かわまちづくり計画」など、「今やるべきこと、今しかできないこと」を的確に捉え、選択と集中を以って、常陸大宮市が変わっていくことが実感できる「わかりやすい」まちづくりを、ソフト・ハードの両面から目指してまいります。
未だに新型コロナウイルス感染の収束が見通せない状況ではありますが、コロナ禍も角度を変えて見れば、リモートワークや自然と触れ合うキャンプ需要など、地方に追い風と感じられるところも数多く見出すことができます。今日のコロナ禍による閉塞感を打破すべく、逆風を追い風に変えるような発想の柔軟性を持って、あらゆる課題に、果敢に挑戦していこうと思えます。
最後に、市民の皆様をお願いします。「自助」とは自分の力だけで事を成し遂げることが本来の意味ですが、今必要なのはこの言葉を「自分が助けにいく」という趣旨に読み替えて行動することだと考えております。コロナ禍の中で、自分が「なくなって欲しくない」と思う場所が存続できるよう、できることをする。公助に比べ微々たるお金しか使えなくとも、この場所を必要としている人がいるというメッセージは市民一人一人にしか届けられません。外食、散髪、買い物、何でも結構ですので、市内で経済を循環させ、皆でこのコロナ禍を乗り越えていきましょう。
結びとなりますが、皆様方のご健勝とご多幸、そして実り多き輝かしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

新年明けましておめでとうございます。
令和3年の輝かしい希望に満ちた新春を、お健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。
皆様におかれましては、日頃より議会運営に對しまして、温かいご支援と深いご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。昨年8月の第11代議長就任以来、初めて迎える新年でございますが、大変身の引き締まる思いでございます。
昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の発生により、東京2020五輪の延期や様々なイベントの中止、緊急事態宣言による学校・企業などでの休業、医療の逼迫など、多くの影響がございました。
こうした中、テレワークやテレビ会議など新しい取り組みが加速され、マスク着用、ソーシャルディスタンスの維持など新しい生活様式が浸透いたしました。私たちは今まさに、時代の大きな転換点に立たされています。新型コロナというピンチを新たな事にチャレンジするチャンスに変えることで、新しい時代を築いていかなければならないと考えております。
一方で、将棋の棋聖戦での藤井聡太7段の最年少タイトル獲得、テニスでの大坂なおみ選手の全米オープン優勝、スーパーコンピュータ「富岳」の計算速度世界一や小惑星探査機はやぶさ2から分離されたカプセルの地球帰還など明るい話題もございました。
常陸大宮市においては、行事等の中止や延期、規模

縮小を余儀なくされた1年でありましたが、多くの分野において、ご活躍・ご尽力された多くの方々に敬意と感謝を申し上げますとともに、今後の更なる飛躍と尚一層のご発展をご期待いたします。
近年の地方分権の進展に伴い、住民福祉の向上や安全・安心なまちづくりなど多岐に亘り市の役割が益々重要となっております。本市では、市の将来像を見据えた「第二期創生総合戦略」の策定が進められておりますが、少子高齢化・過疎化の進行に伴う人口減少対策を最重要課題と位置づけ、執行部と議会が連携を図りながら、市民目線で考えた施策に取り組む覚悟であります。
中長期的な視野に立ち、常陸大宮駅周辺整備事業や各支所を拠点とした周辺地域の活性化などの計画を着実に進め、「持続可能なまちづくり」と「地域をつなぎ安心して暮らし続けられる拠点づくり」の実現にむけ、二元代表制の一翼を担う議会が一丸となって鋭意努力することをお誓いいたします。その結果、未来を担う市の宝である次世代の子供たちにしっかりと「常陸大宮」の譽を渡し「人が輝き安心・快適で活力と誇りあふれるまち」が実現されるものと考えております。
結びに、今年の干支「丑年」が粘り強さや堅実さを表すことから、焦ることなく、一步一步確実に前へ進まれ、皆様にとりまして実り多き年となりますことを、心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。